

「細かい取っ手やパーツまで飽きのこないものをチョイスして、歳を重ねても自分たちに沿うようにとこだわりを貫きました。」



Come Home Story

ご入居後の

お宅訪問

No.024

カムホームストーリー

高岡郡・Tさま邸

竣工:2011年6月

設計担当:岡本 理絵



「他とは違う…社長やスタッフの人柄ですね」

田んぼが広がるのどかな緑の風景に、白い塗り壁がひととき目を惹く外観。ここでひっそりとベーグル屋を営んでいるのがTさまのお宅です。結婚後3人のお子さんに恵まれ、長い間暮らしていた社宅が手狭になってきたことから家づくりへと思いが傾きました。他社をまわり検討する中、知人がタイセイホームで家を建てたことを知り訪れた見学会で「住むならこんな家」と心が動きました。社長の社長らしくない親しみやすい雰囲気や考え方、思いに共感したという旦那さまは「お互いが言いやすい関係」だと信頼をおきます。「主人と社長がすごく楽しそうに話しているのを見て、ココがいいと思いました」と奥さまも納得。当時、見学会にお手伝いとして参加していたお客さまサポーターの山本が「かなりインパクト大でした(笑)」という奥さま。質問をすると「僕、社員じゃないんですけどね(笑)」と言いがらぬことを説明してくれ、「おもしろい会社」として印象強く残ったのだそう。「社長と他のスタッフの人柄を知って、余計に他の住宅会社とは違うなと感じました」と色濃いタイセイホームとの出逢いを語ります。

「かわい過ぎても歳がいった時によ住まん(笑)」「歳をとっても住める家」にこだわりました」

土地は「社長が紹介してくれた」という3つのうちのひとつ。一緒に見て回り「ここがいい」と家族の意見が一致し、Tさまの家づくりがスタートしました。「歳をとっても住める家」との思いから、白と天然木のオリーブ色のシンプルな組み合わせで統一し、圧迫感を感じさせない工夫も。住み始めても色を増やさないようにしてきました。「かわい過ぎても歳がいった時によ住まん(笑)」と、細かい取っ手やパーツまで飽きのこないものをチョイスし、歳を重ねても自分たちに沿うようにとこだわりを貫きました。タイルが好きな奥さまが「これ良かったです」と話すのは、工事も終盤に差しかけた頃「ここタイルにしたら」と社長から提案されたというトイレのニッチ。洗面台のタイルと同じものを貼り、でし上がりを見て「いい」としっくりきたお気に入りスペースです。パン作りが趣味の奥さまは今では念願叶い、ベーグル屋をオープンさせて3回目の春を迎えます。「新作は季節のものや地元のものを使うようにしてます」と、思いついたら作り始め、家族のオッケーが出たら店へ並べる。試行錯誤を繰り返し、週末お店へ足を運んでくださるお客さまの笑顔を思い浮かべながら今日もせせと手を動かします。

「いずれは2人で住む家、いろんな形で使える家を」

「こんなあったらいいね」と雑誌で見つけてもらったというファミリースペースでは、娘さんたちが勉強や趣味のピアノに打ち込み、息子さんはここでゲームをするのが日課。反対側につくった奥さま専用の家事スペースは一番上の娘さんの勉強スペース、というのが現在の生活スタイルです。「将来必要になればあとからでもつくれるから」と、壁をつくらずオープンなひとつの空間にした子供部屋では、兄弟仲よく川の水で寝る毎日。自然と3人の会話も弾み、仲を深める場になっています。「いずれは2人で住む家、たくさんの部屋を仕切って物置きになるより、できるだけオープンにして使えるように」と、今を使い勝手良く、将来用途が変わっても不自由なく生かせる間取り。「いろんな形で使える家」として、Tさまご家族の暮らしに寄り添っています。「この人ここで日光浴もするんですよ(笑)」と、旦那さまの隣で優しく微笑む奥さま。「暖かい時期は中にいるより外にいるほうが長い」という旦那さまは、優しいお陽さまが差し込む広いお庭とウッドデッキが大のお気に入り。Tさま邸ではとにかく大活躍している場所でもあります。社宅ではできなかったパーベキューも、仲間になったお隣さんを交えてやることも多く、予算的に目論みのフェンスを諦めたものの「最終的には良かった」と声を揃えるTさまご夫妻。何も無い日でも「七輪出して今日は外で食べよっか〜」と、時にはそのまま夜までラジオを流しお酒を嗜みながら家族との時間を過ごしているとか。仲の良い家族の在り方を、こうして3人のお子さんへと引き継いでいます。